

山口放送

| | |
|------|--------------------------|
| 活動名 | テレビ放送の裏側を知ろう！ |
| 実施期間 | 令和 6 年 1 月 25 日、1 月 30 日 |
| 実施回数 | 学校 2 回 |

【実施学校】 周南市立福川小学校、周南市立遠石小学校

【事業実施の成果・課題】

- ・授業を行った学校からは、「キャリア教育につながる貴重な経験になった」など感想をいただいた。今回の授業を歓迎していただけたように思う。
- ・45 分間（うち 18 分が DVD 視聴）での授業実施としたが、児童たちが深く考えたり長く作業をしたりする内容にまで展開する時間はなかった。
- ・今回、質疑を受ける時間を作れなかったが、今後は、質疑応答で授業を深めることにもウェイトを置きたいと感じた。子どもたちの関心・興味がどんなところにあるのかを知ることは、私達自身の仕事や放送について見直す機会にもつながると考える。
- ・終始“聴くだけ”の受け身授業にはならないように心掛けた。また、DVD 視聴以外の時間は、ディレクター（元記者）とアナウンサーが入れ替わりながら講義する形を取り、変化をつけながらテンポよく進めることにも心掛けた。事前に 2 人で方向性をすり合わせる作業が必須だった。
- ・民教協制作 DVD は非常に効果的な教材だったと感じる。トークや画像だけでは伝えづらいリアリティーとほどよいバラエティー感を備えた内容で、18 分間という長さも適当だったように感じる。せっかく放送局のスタッフが授業に参加しているので、たっぷり生の言葉で語る・伝えることも重要ではあると思うが、わかりやすさや授業に緩急をつけるといった面で、弊社では迷わず DVD を活用することとした。
- ・放送の裏側を知ってもらっただけでなく、山口放送の番組を知ってもらっただけの良い機会になったと感じる。（※今回講師を務めたアナウンサーは、ニュース番組のキャスター）

【事業担当者の感想】

- ・短い時間でコンパクトにインパクトのある授業をすることは大変難しいものだと感じた。
 - ・今後、余裕がある際には、「子どもたちの関心事」はどんなことなのか、しっかりリサーチをしたうえで授業に臨めればさらに良いと感じた。（今回も、校長先生との事前打ち合わせで「フェイクニュース」「能登半島地震」などのキーワードを拾い上げることはできた。）
 - ・授業内容を考えていく過程は、自分たち自身の普段の業務、放送のことを改めて振り返る大変良い機会となった。
- ※ DVD 視聴パート以外の授業内容に大変悩んだ。最終的に、
- ① DVD のポイントをおさらいすること & 関連付けて膨らませる
 - ② DVD に関連付けつつ、短い時間で「へえ～」と思える内容をプラスアルファすること
- と方針を定めた。その結果、

①たっぷり膨らませる時間まではなかった。(ただ、「ニュースに必要なこと」4つのキーワード(速報性・正確性・公共性・公平性)から多種多様な話に膨らませられる可能性を感じた。1月1日に発生した能登半島地震のことなどタイムリーな話題に多少触れた程度で終わってしまった。)

②原稿の「約～」を「およそ～」と書き換える・読み換える(※「やく」を「ひやく」と聞き間違えないように)、など、伝えたいこと(取材内容)をより正確に伝えるために放送の現場で実践されている工夫・心がけについて、レクチャーすることとした。模擬ニュース原稿を児童たちに見てもらい、書き換える・読み換えるべきポイントを考えてもらったり、考えたように読んでもらったりした。)

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

<福川小学校 児玉校長>

その道のプロは「生きた教材」であることを改めて実感する授業でした。子どもたちのメディアリテラシーを高めるとともに、好奇心をくすぐる内容が素晴らしかったです。

<福川小学校 軍場教諭>

アナウンサーの方がどのようなことに気を付けてお仕事をされているのか、テレビ番組ができるまでにどのような人たちがどのように関わっているのか等、今回学んだことは学校では教えてあげられないことだらけです。これから、テレビを点けた時には今回のお話を思い出して、より楽しく観ることができると感じました。

<遠石小学校 西山教諭>

ニュースの裏側のDVDがよくできていると思いました。ニュースをつくるために必要な①速報性 ②正確性 ③公平性 ④公共性が例を挙げて分かりやすく紹介されていました。子どもたちも笑いながら楽しんで見ることができたことがとてもよかった。

社会科で既に、ニュース番組ができるまでを学習していたものの、日頃から目にしているニュース番組のアナウンサーやディレクターのお話を聞くことができ、ニュース番組が子どもたちにとって、身近に感じられたように思う。能登半島地震が記憶に新しい中、ニュースが速く正確な情報である必要があることに気付けた子が多かった。

テレビ番組やインターネットでの情報がいつも正しいとは限らないこと、たくさんの情報を比べて自分で判断することが必要であることを子どもたちに気付かせていきたい。

<遠石小学校 山根教諭>

授業していただきありがとうございます。社会の学習でテレビの裏側について学習をしていたこともあり、テレビに出演している方がいらっしゃることにとっても興味を示していました。「外郎売り」のプリントがおもしろかったようで、音読の宿題で読んでいる児童もいます。動画もわかりやすく、児童のツボにはまる表現も多かったようです。社会のデジタル教科書にもテレビ制作者へインタビューをしている動画がありますが、一人の主人公が番組を作るために、様々な人と関わりながら奮闘している今回の動画の方が子どもたちはわかりやすかったのではないかと思います。

「ニュース番組では優先順位を考えて正確な情報を早く伝えることが求められる」ことは教科書でも学習しますが、1月1日にお正月番組がすべて地震のニュースに変わったことを体験したり、アナウンサーの方が緊急避難情報を伝えるための言葉を覚えて言えるようにしていることを知ったりしたことで、ニュース番組で放送する第一優先は命を守るための情報ということを実感した児童もいました。